

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来を力強く生き抜く、思いやりのある人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

【チーム翔南として教育活動に取り組む】

- 1 確かな学力を携えて、主体的に自己実現と社会に貢献できる人材を育成する。
- 2 グローバルな視点からの情報収集や問題発見・解決能力、論理的思考力、探求力、チャレンジ精神を育む。
- 3 思いやりのある心豊かな人材を育成する。
- 4 社会構成員としての自覚（ボランティア精神、美化意識、規範意識、多様性、協働性）を育み未来の創り手となる人材を育成する。

2 中期的目標

- 1 地域に根差した高校として、未知の状況に対応できる、確かな学力を育成する。
 - (1) 学びを人生や社会生活に活かせるよう、早期にキャリアを展望させ、生きて働く知識・技能の習得など、新しい時代にアクティブに学び続けられる資質・能力の育成をめすため、主体的・対話的・深い学びの視点からの授業改善に取り組む。
 - ア 相互授業公開や研究授業、ICT、他校への授業見学、学校教育自己診断、授業アンケートなどを効果的に活用した授業改善に一層取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断における授業満足度（H30年度 65.7%、R1年度 65.7%、R2年度 59.2%）を毎年引き上げ、R5年度には70%にする。
 - イ ICTを効果的に取り入れ個別最適な学びと協働的な学び、一斉学習を併存的に展開し、学びの深化を図る。
 - ウ 自らの学習状況やキャリア形成を見通し、それぞれがより高い進路実現をめざす。
※活動記録シートやキャリアパスポートの活用。
※国公立大学、公務員就職者などは少なくとも一人ずつ、難関大学、看護医療系学校（H30年度 35名、R1年度 52名、R2年度 42名）などの合格者は30名以上輩出する。
 - (2) 特色ある教育活動の充実
 - ア 地域交流・国際理解教育など本校の特色をさらに充実させる。
 - イ 「ハートフルほいく専門コース」をさらに充実させる。
 - (3) ウェブサイトや学校通信などの広報活動を充実させ、社会に開かれた学校づくりを更に推進する。
 - ア 授業公開の充実。
 - イ 学校行事への地域住民の参画、連携の拡大。
 - ウ メール発信ツールやホームページの充実。
 - エ 地域イベントへの積極的な参画。
 - オ 学校紹介。
 - (4) インクルーシブ教育システムの更なる推進
校内支援体制の更なる充実とともに、福祉医療関係人材・SC等外部機関との連携をより深め、障がいのある生徒、そうでない生徒、課題のある生徒、そうでない生徒等、すべての生徒の学びと育ちを支援する。
 - ア 専門家との連携。
 - イ 研修及び研修報告の充実。
 - ウ 研修及び共同学習の推進。

2 思いやりの心と健康体力の醸成

- (1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」が理解できる人権教育を推進する。
 - ア 志学、道徳教育、キャリア教育等と連動した総合的な探究の時間やホームルーム活動を充実させる。
 - イ 生命の尊さを問う、また新型コロナウイルス感染症に係る偏見や差別を許さないなどの人権教育を充実させる。
 - ウ 全教育活動を通して、生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、機を逸することなく関係機関との連携にて校内委員会を開催するなど、組織として未然防止、対応、解決に向かう。
※人権尊重の教育を充実させ、対人関係に起因するトラブルの未然防止に繋げる。
- (2) 健康体力を意識した取組みなどを推進する。
※健康月間、週間の設置

3 心安らげる安全で安心な学校づくり

- (1) 社会構成員としての自覚を高める。
 - ア 遅刻・早退・欠席等を減少させ、基本的な生活習慣を確立する。
※全学年年間遅刻件数(H30年度 7.9回/人・年、R1年度 7.7回/人・年 R2年度 8.01回/人・年)を毎年徐々に減らしR5年度に4.9回/人・年とする。
※全学年年間遅刻・退出件数(H30年度 9.4回/人・年、R1年度 10.9回/人・年 R2年度 11.8回/人・年)を毎年減らしR5年度に7.0回/人・年とする。
 - イ 広域生徒指導の定着を図る。
- (2) 美化・健康・保健・衛生管理・防災への意識を醸成し、清潔で整備された安全で安心な教育環境を維持する。
 - ア 日々の清掃活動の充実を図るとともに、施設・設備の点検、維持管理、更新などに積極的に取り組む。
※有志による清掃活動参加率(H30年度 14.3%、R1年度 13.5% R2年度 40名に限定)を毎年増やし、R5年度には在籍生徒数の20%にする。
※学校施設の機能強化(安全・保健衛生・長寿命化・指導上)の為に総点検を実施し課題を抽出する。
 - イ 火災だけでなく、地震や津波、テロなどを想定した防災教育を積極的に行い防災意識の向上を図る。
※予告なしの防災訓練を実施するなど、訓練に工夫をこらす。
※地域との連携を深め精度の高い防災計画を作成する。
※メール・情報発信ツールを有効に活用し安全確認の迅速化を図る。

<p>ウ 新型コロナウイルス感染症に係る対応を充実させる。</p> <p>(3) 特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。</p> <p>ア ボランティア活動を通じて、社会貢献の意識を高める。</p> <p>※部活動参加率（H30年度 39%、R1年度 33.8% R2年度 30.0%）は地域との連携を深めR5年度には35%とする。</p> <p>※ボランティア活動や体験活動への参加を奨励する。</p> <p>(4) 学校組織力の向上を図る。</p> <p>ア 人権教育推進委員会、教育課程委員会、オンライン学習 PT、SP 会議（将来構想委員会）、食物アレルギー対応委員会、国際理解教育委員会、進学希望者支援委員会、クラブ活性化チーム、フレッシュパーソンチューター会議などを充実させる。</p> <p>イ 学習指導要領改訂に対応した、内規等の見直し及び観点別学習状況の評価を試行する。</p> <p>4 人材の育成と管理</p> <p>(1) 教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権教育、いじめ防止、感染症対策、仲間づくり、インクルーシブ教育、教育相談、食物アレルギーなど、必要に応じたテーマで講演会や研修を実施する。</p> <p>ア ミドルリーダーや外部講師により、授業改善（ICT を活用した授業実践に向けた研修）、偏見や差別を許さない人権感覚の醸成等の研修、等を実施し、教職員の資質の向上を図る。</p> <p>(2) 働き方改革を推進する。</p> <p>ア 働き方改革推進のため週 1 回の定時退庁日（金曜日）に加え、月 1 回の定時退庁日（スーパープレミアムフライデー：最終週の金曜日）を設置する。同時に、月間超過勤務対象者にはその都度書面の提出を求め、解決を図る。</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>今年度学校教育自己診断では、生徒対象では「学校の進路についての情報をよく知らせてくれる」が 9.3 ポイント上昇した。保護者対象で同項目は 12.4 ポイント以上上昇しており、これまでの取組みに加え、生徒へのきめ細かい指導が充実したと判断する。</p> <p>保護者対象では「子どもにとって、興味・関心に応じて選べる選択科目が多い」が 5.9 ポイント下降しているが、生徒対象の同項目は 1.6 ポイント上昇しており保護者への伝え方に工夫が必要であると判断する。</p> <p>教員対象では肯定的な評価が 8 割を超える項目が昨年度の 7 項目から 14 項目に倍増しているが、コロナ禍により文化祭を中止したことで「文化祭や体育祭などの学校行事が魅力あるものになるよう工夫している」が 32.1 ポイント下降した。また、「いじめが起こった時際の体制が整っており迅速に対応することができている」には回答したすべての教員が肯定しており、学校全体でいじめに対応する体制が整ったと判断する。</p> <p>○生徒アンケート</p> <p>【1 評価が高かった項目】</p> <p>肯定的な評価が 8 割以上を占める項目は、「服装や頭髮の指導がきちんとできている」「自分は、校則やマナーを守っている」</p> <p>【2 評価が低かった項目】</p> <p>肯定的意見が半数に満たなかった項目は、「生徒会活動は活発である」「自分は、授業や部活動で地域の人や近隣の学校と係わる機会が多い」となった。</p> <p>○保護者アンケート</p> <p>【1 評価が高かった項目】</p> <p>肯定的な評価が 7 割を超える項目は、「子どもはクラスは楽しいと感じているようだ」「服装や頭髮の指導がきちんとされている」「子どもは校則やマナーを守っている」「先生は、子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる」「教室・運動場などは、授業等の活動がしやすいように整備されている」「子どもは、学校からのプリントや連絡を保護者にきちんと伝えている」となった。</p> <p>【2 評価が低かった項目】</p> <p>肯定的な評価が半数に満たなかった項目は、「部活動は活発であると思う」</p> <p>「子どもは学校で、授業や部活動で地域の人と係わる機会があるようだ」「PTA 活動は活発であると思う」となった</p> <p>○教職員アンケート</p> <p>【1 評価が高かった項目】</p> <p>・肯定的な評価が 8 割以上の項目は、「生徒は授業を理解している」「生徒指導はできている」「生徒や保護者に進路情報をよく知らせている」「部活動活性化に工夫している」「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会を作っている」「地震や火災などの避難訓練を十分に行っている」「教室や運動場など授業等が整備されている」「教育活動の情報を生徒・保護者や地域へ周知している」「授業アンケートや授業公開をして外部に授業を公開している」「生徒指導において組織的に対応できる体制が整っている」「問題行動の防止のために早期指導に学校全体で取り組んでいる」「教育活動について日頃から教職員で話し合っている」「自分は常に自己研鑽し、自己の授業をはじめ教育活動全般の向上に努めている</p>	<p>第 1 回【令和 3 年 7 月 16 日（金）書面による開催】</p> <p>○令和 4 年度学校経営計画および教科書選定を含むすべての議事は承認されました。</p> <p>○学校運営協議会委員から意見概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画に ICT 機器の導入にかかり「取り入れる」「深化を図る」との記載があるが、教科指導面や特別活動での活用での、より具体的なイメージを把握したい。 ・「りん翔 SORA プロジェクト」などの国際理解教育について、学校間交流だけに止まらず、人権や環境などの多様な領域と関連付けた活用となることを望む。 ・コロナ禍により 3 年生の修学旅行が中止になるなど大変な状況と思うが、3 年生の思い出として何かできないか。時期を延期して体育祭や校外学習を方策の一つとしてはどうか。 ・おなじ市内に存在する中学校としてりんくう翔南高校の発展に協力していきましょう。 <p>また、ご指摘として、最近、遅刻する生徒が増加しているように感じることや通学中の態度などに不安を感じているとの意見を頂戴しました</p> <p>第 2 回【令和 3 年 11 月 29 日（月）14:45～15:45】</p> <p>○学校運営協議会から質疑応答及び意見概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力検査がある大学入試を受ける生徒が看護医療系進学者に限定されるとのことであるが、本来、入試は学力検査を伴うものである。学力等、実情を照らし合わせと仕方がない面もあることは理解しているが『学力検査が伴う入試を利用する生徒はほとんどない』の一言で済ませてしまっているのか？ →まずは看護系などを志願する生徒から個別の指導を充実させて学校全体に広めたい。 ・PTA が主催の職業講話を行うが、就職希望者を対象としての講話をするべきか社会人としての心構えなど見据えた話をすべきなのか？ →生徒の進路ニーズの多様化に柔軟に対応するテーマを共に考える必要がある。 ・コロナ禍のなかで、いかに自尊心を高めさせるかをベースに生徒指導を行う必要があるのでは。指導が難しい生徒が増加している中で、学校行事をはじめとした生徒に寄り添う機会を増やしてほしい。 →行動制限がある中、例えば文化祭に替える文化祭の発表の場を設けるなど、安全性に配慮しながら出来る限りの行事を今後も行っていく。 <p>第 3 回【令和 4 年 2 月 7 日（月）書面による開催】</p> <p>○文書にて頂いた意見、助言の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元で生活し、地域を支える人材を育てる『泉南地域の中核的公立校』として、これからもあり続けていくことを期待する。 ・コロナ禍における学校経営は、安全安心への配慮など苦労が多かったと察する。 ・評価指標の一つである学校教育自己診断の回答割合が保護者 24.9%、教員 57%と低い。 ・学校教育自己診断の、教員の Q「生徒は授業を理解している」について高い評価が出ている一方、生徒の授業満足度は下がり乖離がみられる。感覚に差があるのではないか。 ・自尊感情の育成や、生徒指導についてこれまで通り取り組むことを期待する。 ・学校教育自己診断で「地域連携」に関する評価が、教員（肯定 57.7%）と、生徒・保護者（それぞれ肯定 34.7%、32.9%）間で大きな乖離がある。加えて、「地域の教育機関」として、地域連携における位置づけや役割を検討していく必要がある。 ・学校教育自己診断で、生徒・保護者共に「授業理解」と「授業集中」に関する評価の平均値は生徒が 62.85%、保護者が 67.65%となっており、学びの担保はできていると考える。 ・就職試験の合格率の向上に向け、基礎学力と自己肯定感の向上を期待する。

<p>る」であり、全体的に評価が高くなった。 【2 評価が低かった項目】 肯定的意見が半数に満たない項目は、「PTA 活動に積極的に参加している)」であった。コロナ禍による行事の中止の影響が大きいと分析している。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標【R2年度値】	自己評価
<p>一 地域に根差した高校として、未知の状況に対応できる、確かな学力の育成</p>	<p>(1)新学習指導要領を見据えた(主体的・対話的・深い学び)の視点からの授業改善</p>	<p>(1) ア ・授業の相互見学や研究授業の実施とその後の研究協議や振り返りシートのフィードバック。 ・アクティブラーニング等の授業方法の研究実践。 イ ・授業改善を軸に、あらゆる教育活動における ICT 機器の利用拡大。 ウ ・キャリアパスポートの充実。 ・高大接続改革(大学入試制度の変更:多面的評価の導入)へ対応した、活動記録シートの充実。 ・進路実現に向けた外部模試の有効活用 ・定期考査前補習や進学希望者補習の実施と、教育産業との連携及び特講(進学補習)や夏期自主勉強週間の充実。 ・大学、短大、専門学校との連携推進。 ・国公立大学や難関大学合格実績の継続。 ・それぞれの進路実現のサポート。(一つ上の進路目標を意識)</p>	<p>(1) ア ・授業アンケートの結果平均を 3.1 以上を維持する。【3.21】 ・学校教育自己診断における授業満足度を上昇させる。【59.2%】 イ ・教科指導における ICT 機器の活用を増加させる。【第 1 回授業見学—15 名、第 2 回授業見学—18 名】 ウ ・キャリアパスポートを各学期に 2 部程度作成する。及び活動記録シートを都度提出させる【キャリアパスポート:2 活動記録シート:活動毎】 ・外部模試受験者数を 20 名程度とする。【12 人】 ・夏期自主勉強会参加生徒数を累計 100 名以上とする。【累計 168 人】 ・大学・短大・専門学校等の連携を 2~3 校とする。【コロナ禍であるため 1 校】 ・国公立大学や公務員合格を絶やさない。【0 人】 ・進路未決定者(進学浪人含まず)を 3%以下に抑える。【0%】</p>	<p>(1) ア・イ) 授業アンケートの結果は 3.25 と安定した結果を維持している。 ・授業観察月間内に 2 つ以上の相互授業見学を実施し、5 段階で項目別に評価するシートを活用することで数値的に相互評価できるようにした。 ・学校教育自己診断における授業満足度は 57.3%と昨年度より下降した。入学してくる生徒の義務教育段階での学習内容の定着度合いは確実に低下してきており、実情に見合った学習方法や内容の検討が今後必要。(△) イ 生徒への 1 人 1 台端末配付により、授業内での活用や課題の配付・提出を学習支援クラウドサービスで行う取組みを進めている【授業での活用:3 年理科、3 年英語 課題の配付・提出:2 年理科など】【ICT 活用確認 第 1 回授業見学时:19 人、第 2 回授業見学时:25 名】 (○) ウ ・活動記録シートについては内容をキャリアパスポートに統合することで、より発展的に生徒が記録し、活用できるよう工夫した。また、キャリアパスポートに関しては 1 学期のすべての学校行事が 2 学期に延期されたこともあり、1 学期はキャリアパスポートの提出は行わなかったが、2 学期で 2 部提出した。(○) ・外部模試受験者数は合計で 2 1 名と目標を達成した。今後も進路決定に向けて積極的に外部模試の受験を勧めていきたい。(○) ・夏期自主勉強会は昨年からの 3 年生のみの実施で参加生徒数は 13 名であった。実施期間の 1 日ごとの参加者数と講座数を累計すると昨年並みである。参加希望者が少なく厳しい状況の中であったが、実施できたことを一定の成果と捉えている。今後も外部模試受験を奨励するとともに、夏季自主勉強会を充実させて、生徒の希望する進路を実現させたい。(一) ・大阪千代田短期大学(親学 10 月)、南海福祉看護専門学校(保育実習Ⅱの出前授業 12 月)、大阪調理製菓専門学校(製菓教室 12 月)、和歌山大学(消費者教育 1 月)4 校と連携した。(◎) ・国公立大学および公務員合格者は今年度合格者 0 名であった。国公立大学を志望する生徒が今年度はおらず、毎年非常に少ないため実現は困難であった。(△) ・進路未決定者は 11.4%となっており今後も粘り強い指導で進路決定者を増やしていきたい。(○)</p>
	<p>(2)特色ある教育活動の充実</p>	<p>(2) ア ・グローバル人材育成のため、SDGs(持続可能な開発目標)の視点も踏まえ、国際理解教育委員会による交流行事の充実と活性化を進める。【国際交流代表団の派遣継続】 ・地域の日本語教室や NPO 等と協力して、多文化理解の取組みを進める。 ・国際的共通語として中心的な役割を果たす英語力をバランスよく育成するため、英語で話す機会の確保。 ・指定校推薦や A0 入試に頼らず、一般入試や公募制推薦入試を活用した進路実現の拡大。</p>	<p>(2) ア ・国際交流事業(りん翔 SORA プロジェクト)などを発展的に継続させる。【香港との Web 交流 8 名参加】 ・地域の多文化理解の取組みへの参加を奨励する。【コロナ禍であるため 0】 ・英検受験者数を 15 名程度とする。【8 人】 ・公募制推薦入試等合格者数を 10 名程度とする。【12 人】</p>	<p>(2) ア) 海外への派遣はコロナで実施できず。2 月に 11 名の生徒が「インターナショナル・カレッジ・香港」と Web 交流を英語と日本語で実施予定。事前に相手校の生徒と掲示板アプリで自己紹介や質問の交流を実施。引き続きグローバル人材育成を継続する。(○) ・外国人講師を招く講演会を中止。長年継続していた取組みであったが、近年講師との打ち合わせの時間が取れない状況が続いており、これを機会に講演会の形態を変更する予定。海外にルーツを持つ方を講師を招いたり、海外で活躍する日本人を講師に招いた講演会を企画する予定で、現在講師との折衝に当たっている。(一) ・昨年度末に受験料を支援する制度が終了したため減少した。【1 人】(△) ・公募制推薦入試等合格者 3 人であった。手厚い指導をしているがコロナの影響もあり、一般入試を待たず、できるだけ早い時期に合格を確定したいという思いが強かったように思える。(○)</p>

府立りんくう翔南高等学校

	<p>(3) ウェブサイトや学校通信などの広報活動を充実させ、社会に開かれた学校づくりを更に推進する。</p>	<p>イ ・ハートフルほいく専門コースの充実。</p> <p>(3) ア 授業公開の充実。</p> <p>イ 学校行事への地域住民の参画、連携の拡大</p> <p>ウ メール発信ツールやホームページを充実させる。</p> <p>エ 地域イベントへの積極的な参画。</p> <p>オ 学校紹介。</p> <p>(4) ア 専門家との連携 イ 研修及び研修報告の充実 ウ 交流及び共同学習の推進</p>	<p>イ ・ハートフルほいく専門コースの選択者について、進路に特化せず、親学習の観点を入れて希望者を増やす。 【27名】</p> <p>(3) ア ・外部への授業公開を昨年並みとする。 【3回】</p> <p>イ ・体育祭、翔南祭への地域住民の参画を奨励する。 【コロナ禍のため不参加:すみれ会】</p> <p>ウ ・メール発信ツールへの登録者数を増加させる。 【1251件】 ・HPの更新やメール発信ツールを昨年並みに有効に活用する。【HP更新(157件) メール発信ツール 生徒・保護者・教職員(72件) 職員限定21件】</p> <p>エ 地域連携活動を15回程度とする。 【5回】</p> <p>オ ・学校説明会申し込み中学生数を増加させる。 【289人】 ・中学校、近隣私塾へのアプローチ回数を例年並みとする。【中学校訪問延80+ 校長独自11校 私塾は26校に資料送付】</p> <p>(4) ア・イ ・教職員研修及び生徒対象の講演会、担当者による研修報告会を例年並みとする。【教職員研修等4回】</p> <p>ウ ・支援学校との交流を推進、発展させる。 【コロナ対応のため不参加】</p>	<p>イ 予備調査では28名であったが、コース説明会や懇談等を経て、本調査では20名に減少した。生徒が自らの進路を真剣に考えた結果である。今後も丁寧な進路指導を行い、コース選択のミスマッチのないようにしていきたい。(△)</p> <p>(3) ア 授業公開は初任者2回、10年目1回、リーダー研修1回の4回実施。コロナ禍のため外部からの希望者はなかった。開かれた学校をさらに推進し、参加者数を増加させるよう努めたい。 (○)</p> <p>イ ・体育祭は時期を遅らせて無観客で実施。感染拡大防止のため翔南祭(文化祭)は中止。代替にクラブ交流会をあらたに企画して文化部の発表を動画配信サービスで限定公開。(一)</p> <p>ウ ・メール一斉配信登録は1,278件となり、電話連絡の必要な生徒は1名のみとなった。通常時の連絡はもちろんや臨時休業等の緊急時には大変有効である。(○) ・HPの更新回数約100件(校長ブログ72回、緊急情報4回、Topics16回、保健だより10回他)。メールソフトでの発信は141件(職員限定含む)。見やすく編集しやすいCSMのHPへと今年度刷新の準備をして次年度より運用開始。(◎)</p> <p>エ 阪南市文化センター3回、ショッピングモール作品展示、泉南市人権、地元自治会絵馬、泉南市認知症サポートキャラバン他、計7回生徒が教育活動の発表やボランティアに参加した。コロナの影響で回数は減少した。 (○)</p> <p>オ ・学校説明会は第3回を実施。第2回までの合計の申込人数が202人。3回目はコロナ第6波の影響で、動画配信サービスで実施。(一) ・中学校訪問は昨年並みの80校(コロナ対応で郵送希望校含む)。ホームページの動画を案内。校長による訪問はコロナ対応で実施せず。私塾対応は3校に資料送付。(○)</p> <p>(4) ア・イ ・LGBTQの当事者や、犯罪加害者「立ち直り」支援に取り組む方を招き教職員研修や学年ごとに講演会を計4回開催した。教職員研修での教職員の振り返りや講演会後の生徒の感想はいずれも肯定的評価が高く、共生社会の実現に繋がる結果であった。(○)</p> <p>ウ コロナ禍のため、交流は未実施。(一)</p>
--	---	---	---	--

府立りんくう翔南高等学校

<p>二 思いやりの心と健康体力の醸成</p>	<p>(1) 「自尊感情」の育成と「多様な個性」「ともに生きる社会」を理解できる教育活動を進める。</p> <p>(2) 健康体力を意識した取組などを推進する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 志学、道徳教育、キャリア教育等と連動した総合的な探究の時間やホームルーム活動を充実させる。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生命の尊さを問う、また新型コロナウイルス感染症に係る偏見や差別を許さないなどの人権教育を充実させる。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 全教育活動を通して、生徒の変化や人間関係のトラブルを見逃さず認知に努め、機を逸することなく関係機関との連携にて校内委員会を開催するなど、組織として未然防止、対応、解決に向かう。 <p>(2)</p> <p>ア 健康月間の設置</p> <p>校内に設置された歯磨きスペースを活用し、歯磨き月間などを充実させる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断による生徒の学校満足度（「自分のクラスは楽しい」の肯定意見）を80%以上とする。【73.3%】 人権テーマ（同和問題、障がい理解などで当事者からの話を聞く等）を扱ったホームルームや職員人権研修を昨年並みに実施する。【生徒8回・教職員5回】 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 認知後は速やかに会議を開催し、対応、解決に向かう。【会議数：5回】 <p>(2)</p> <p>ア 歯の健康月間として年間2回程度実施する。【コロナ禍のため未実施】</p>	<p>(1)</p> <p>ア) コロナ禍で子ども達を取り巻く厳しい社会情勢の中、学校の使命が問われる数値と捉えている。本年度は74.4%と微増した。With コロナが2年めとなり日常を部分的にでも取り戻したことも影響したと分析する。引き続き、すべての教育活動で改善方を施し生徒の満足度の上昇に向かいたい。(○)</p> <p>イ) 生徒対象8回、教職員対象2回の計7回開催した。教職員対象には拉致問題と同和問題についての講演を実施したが、どちら満足度の高い研修であった。また、生徒対象の講演においても、事後の感想より「共感できた・親近感がわいた」など多くの前向きな思いが確認できた。今後もより充実させ生徒、教職員の人権感覚を高めたい。(○)</p> <p>ウ・【いじめ防止対策委員会】を(3回)開催し組織として対応に努めた。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア) コロナの影響で歯の健康月間は設置できなかったが、歯科検診の結果報告をすべての生徒にコメントを添えて通知して歯の健康維持についての意識を喚起した。(○)</p>
<p>三 心安らげる安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1) 社会構成員としての自覚を高める。</p> <p>(2) 美化・健康・保健・衛生管理・防災への意識を醸成し、清潔で整備された安心・安全な教育環境を実現する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校一斉指導（服装・頭髪・身だしなみ指導）を充実させ規範意識を高める。 式典（始業式・終業式）での校歌斉唱及び正装の徹底を図り儀式的行事感を身に付ける。 <p>イ 広域生徒指導を定着させる。</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 事務室等との連携による施設、設備のより適正な維持管理に努める。 学校内外における美化活動及び清掃活動の充実を努める。 生徒保健委員会の取り組みを充実させ生徒の健康意識の増進を図る。 食物アレルギー対応委員会を充実させ「学校における食物アレルギー対応ガイドライン」の周知を徹底するなどし、事故の未然防止に努める。 喫煙防止、性感染症防止、薬物乱用防止教育の更なる推進。 憩いの場として、中庭（噴水）スペースの整備 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 停学を伴う特別指導案件数を昨年並みとする。【22件、30名】 全学年総年間遅刻件数を生徒一人当たり昨年並とする。【8.01回/人・年】 式典時、自主的に整列ができるようにする。 <p>イ</p> <p>広域生徒指導を例年並みに実施する。【警察との連携1回 保護者との連携1回】</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 校内照明のLED化の促進少なくとも30ヶ所の交換を実施する。 消防設備を計画的に更新する。消火ホース、感知器類を中心に約80ヶ所を更新する。 校内草刈りを年間3回程度実施する。【4回】 有志生徒による一斉通学路清掃参加者を80名程度とする。【40名限定】 生徒保健委員会の研究発表会を2回程度実施する。【コロナ禍のため未実施】 食物アレルギーに係る委員会を学期に1回開催する。【各学期1回】 喫煙防止教室、性感染症防止講演、薬物乱用防止教室等を引き続き実施し肯定率を維持する。【肯定率：喫煙防止教室98%、性感染症防止講演97%、薬物乱用防止教室97%】 中庭スペースの整備は昨年並みの整備に努める。【6回】 	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別指導案件は16件、24名で減少した。数値がすべてではないが、規範意識の定着度を客観的に見る参考数値として捉えている。今後もカウンセリングマインドをもって数値の減少に向かいたい。(○) 遅刻総数5701回、生徒一人あたり平均8.45回と遅刻数は昨年度とほぼ変わらなかった。この数値は規範意識と共に学校力が問われる数値と捉えている。今後も学校関係者が連携協力し、数値の減少に向かいたい。また、トイレ退出については増加傾向にあるため、休憩時間を有意義に活用し授業を大切にできるよう指導していく。(○) <p>イ</p> <p>7月に生徒会・保護者・教職員・地域警察署との連携で実施した。地域と共に育つ学校として意義深い取り組みである。今後ますます発展させたい。今後も十分な感染対策実施し継続していきたい。(○)</p> <p>(2)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> LED照明35カ所工事実施。 消防及び防災設備の改修150カ所実施。防犯防災計画は必要な修正を行って作成した。(○) 校内草刈り商工労働部依頼分（無償）7回、学校発注4回実施。(○) 学校内外における美化活動について、通学路清掃をPTAの協力のもと7/12と12/15に実施した。感染予防対策の観点より生徒の参加者は40名と制限を加えた。(○) 生徒保健委員会の研究発表会はコロナ禍のため未実施。代わりに各学期に1週間昼休みにコロナ感染防止の校内放送実施。年3回美化週間を設け、生徒保健委員を中心に昼休みに放送で美化活用の呼びかけと、廊下や階段のゴミ箱の清掃を実施した。(○) 食物アレルギー委員会を4月、6月、11月3回実施。(○) 喫煙防止教室(97.0%)、性感染症防止講演(91.0%)、薬物乱用防止教室(98.0%)と高い肯定率を維持している。(○) 噴水及び周辺の清掃は6回実施。また全館ワックス清掃実施、防草シート500㎡設置、7教室黒板張替、給水設備20カ所補修、防水工事2カ所実施、校舎内全エリアのWifi環境整備、トイレ3カ所補修、建具150カ所補修、その他50カ所補修に取り組んだ。(○)

	<p>(3)特別活動や生徒会活動を通じて自己有用感を醸成する。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務室等との連携により防災計画をより充実させるなど、防災意識の向上を図る。 ・地域の防災訓練に学校施設を貸し出すなど、地域ぐるみによる防災意識の向上を図る。 ・情報発信ツール活用の充実を図り、教育情報の効果的な発信とともに災害時における迅速な安否確認に努める。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症に係る対応を充実させる。 <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動を通じて、社会貢献の意識を高める。 ・部活動参加率は地域との連携を深め R5 年度には 35%とする。 ・クラブ活性化担当の配置、地域や外部人材との連携による部活動及びボランティア活動の充実を図る。 ・地域中学校との交流を推進する。 ・生徒主体の体育祭、翔南祭、学習発表会など学校行事を充実させる。 	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・浜保育所との連携を継続させる。【1回】 ・ICT 活用に関する教員研修を2～3回実施し活用能力の向上を図る。【3回】 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健所や学校医など関係機関との連携を深める。【学校医による感染防止に関する研修2回】 <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率を増加させる。【30%】 ・ボランティア部や生徒会が主体となり、体験活動ボランティア活動について、10回程度の実績をめざす。【2人・2回】 ・部活動について、中学校との連携回数を増加させる。【5回】 ・学校行事の事後アンケートでの肯定的意見を増やす。【コロナ禍のためアンケート未実施】 	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/14, 11/5の2回泉南市立浜保育園、1/27 樽井小学校が津波時一次避難所となっている本校までの移動避難訓練の受け入れ。(○) ・GIGA サポーターによる学習支援クラウドサービスの操作方法、フォーム作成ツールの使用方法についての講演と実習の実施、校内 ICT 担当チームによる研修計3回実施。(○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校医出席の学校保健委員会および講話等2回実施。(○) <p>(3)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動活性化担当を配置し、その担当を中心に部活動活性化担当者チームを作り4月に新入生向けにクラブトライアルを実施した。コロナとアルバイトの関係でクラブ加入率は27.0%で微減。(○) ・ボランティア活動で生徒会役員の生徒が地域の公民館活動に年3回延べ15名が参加した。ボランティアにかかわる方が高齢化していたため高校生の参加は歓迎され、次年度以降も参加を期待されている。(○) ・一昨年度から実施している中学校との交流大会(りんくう翔南杯バレーボールの部)は昨年度の引き続き3月に実施予定である。本校での中学校とのクラブ交流は6回実施。(○) ・学習発表会はコロナ対応で学年別に実施し、探求的な学びの発表を加えた内容とした(2・3年—12/2実施、1年—1/27実施予定)。新しい時代に求められる探求的な力が育まれ大変意義深く捉えている。(○) ・昨年度コロナのため見送った体育祭での応援合戦を復活させた。コロナ禍による文化祭の中止に伴い文化部の発表機会を失ったことからクラブ交流文化部発表会を企画し実施した。アンケートは実施していないが参加者は全員満足していた。また、昨年度から実施しているクラブ交流会スポーツマッチは3月に実施予定である。さらに卒業式の前日に3年生の舞台発表の場を設け実施する。(○) <p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育産業が提供する動画配信サービスを活用する研修を結果分析会と兼ねて進路指導部が主体となって校内研修を2回実施した。今後は学年や担任レベルで生徒個人に合った動画配信サービスを使いこなせるように教員全体のスキルアップを図りたい。(○) ・担任会議、学年団会議は例年通り実施、スタッフ会議(いわゆる学校経営会議)は18回実施。再編整備の対象校なり、一層風通しの良い組織づくりを目指したい。(○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会は8回(12月末現在)実施し、新教育課程表を向こう3年間を見据えて作成した。観点別学習状況の評価に関しては、教員向け研修と評価に対応した内規の改定を含め、観点別評価検討委員会が中心となって動いている。1月13日現在4回実施。(○)
	<p>(4)「組織の充実と活性化」</p>	<p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会、オンライン学習PT、教育課程委員会、SP 会議(将来構想委員会)、食物アレルギー対応委員会、国際理解教育委員会、進学希望者支援委員会、クラブ活性化チーム、フレッシュパーソンコンピューター会議、定例学年団会議・学年主任連絡会等を更に充実させる。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の改訂に対応した、内規等の見直し及び観点別学習状況の評価を施行する。 	<p>(4)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン学習 PT を軸に ICT 活用能力向上のため研修会を昨年並みに実施する。【3回】 ・学年団会議及び学年主任連絡会を昨年並みに実施する。【学年団会議:26回主任連絡会:12回】 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程委員会を定期的に実施する。【12回】 	

府立りんくう翔南高等学校

<p>四 人材の育成と管理</p>	<p>(1)教職員の資質向上のため、授業改善を軸に、人権教育、いじめ防止、感染症対策、仲間づくり、インクルーシブ教育、教育相談、食物アレルギーなど、必要に応じたテーマで講演会や研修会を実施する。</p> <p>(2)働き方改革を推進する。</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善（ICTを活用した授業実践に向けた研修）、偏見や差別を許さない、人権感覚の醸成、等の研修を実施し教職員の資質の向上に向かう。 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働き方改革推進のため週1回の定時退庁日（金曜日）に加え、月1回の定時退庁日（スーパープレミアムフライデー：最終週の金曜日）を設置する。同時に、月間超過勤務対象者にはその都度書面の提出を求め、解決を図る。 	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミドルリーダーや外部講師により、授業改善等の研修を年間10回程度実施する。【15回】 <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月間超過勤務80時間以上の年間延べ人数延べ回数を減少させる。【2名、2回】 <p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修や報告会等を職員会議に引き続き開催（4回）、ICT担当によるリモート授業研修会等の開催（3回）、大学や関係機関より講師を招いた教職員研修の開催（4回）や教科会議での情報共有により、意識改革や資質向上に努めた。【11回】（○） <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常的なアナウンスにより、80時間の超過勤務者が4名になった。校長による面談を実施して勤務の状況を聞き取り、できる限り計画的な業務遂行と進行管理を指導した。今後も本府の指針にそった働き方改革を推進したい。（○）
-----------------------	---	--	---